

# NHK邦楽技能者 育成会 現代邦楽 同窓会

現代邦楽

「**響**」

HIBIKI  
2019

2019年

**3月7日(木)**

午後6:00開場/午後6:30開演

渋谷区

文化総合センター大和田

**伝承ホール**

〒150-0031 渋谷区桜丘町23判21号

長かった冬も終わり、ようやく春の訪れの候となりました。

本日はご多用の中 NHK邦楽技能者育成会同窓会「響」の演奏会にご来聴いただき、誠に有難うございました。一昨年、会の企画による講習の成果発表の場として開催されました演奏会、現代邦楽「響」も、本日で3回目を迎えることができました。

この会は、出演者の有志、出演しないで無償の労力を提供してくださる方々の努力により成り立っております。演奏会のこまごまとした準備のうち、練習場の予約や、楽器の手配等、演奏者が当然のように安心して演奏に臨めるのは、陰の大きな力のお陰と感謝致しております。

出演者一同も、NHK 邦楽技能者育成会の卒業生であるという誇りを忘れずに今後も続けてゆきたいと思っております。

来年はオリンピックの年でもあり、スポーツのみでなく日本の文化も注目されることと思います。

明治の新しい時代に入ったとき、時の政府は西欧文明を取り入れるため、日本固有の文化を切り捨てるという暴挙に出ました。それから150年経った今、ようやく世界から少しずつ日本文化が認められるようになりました。日本の音楽も西欧音楽でなく、日本固有の音楽が認められる時代が来ることを願っており、私は生涯をそのことについて費やしてまいりました。最近中学生の「TBS こども音楽コンクール」で、洋楽器のアンサンブル（オーケストラを含む）を抑えて箏のアンサンブル（32人の合奏）が優勝、文部科学大臣賞を受賞したという快挙を聞きました。少しずつではありますが変わっている兆しが見えてきましたことは喜びです。

今後ともよろしくお願い申し上げます。



響 2019 練習風景

## 「育成会への想い」

森田 柁山(19期)

実行委員より寄稿の題材は「お任せ」とのことなので、育成会への個人的な思い出を書かせていただきます。

私が育成会に入ったのは1973年ですので、ほぼ半世紀前、大学在学中でした。師匠の勧めでした。音楽の専門教育を受けていない私には、杵屋正邦先生、藤井凡大先生の授業は新鮮で刺激的で、大学の授業では「皆勤」の講座はほぼ皆無でしたが、毎週火曜日が楽しみでした。そして年齢制限の上限から下限まで、様々な仲間たちとの交流、圧倒的に女性が多い教室、瞬く間の1年でした。そして卒業演奏会。

11期から18期までは内幸町のNHKホールで卒業演奏会が行われていましたが、私たち19期の時に渋谷のNHKホールが完成。そこでの卒業演奏会は論外！（後に記念演奏会〈40周年・50周年・55年最終〉がNHKホールで開催されるとは当時は夢にも思いませんでした。）また外部のホールを借りるのも予算がない（20期からイイノホールだったのに・・・）ということで、19期は509スタジオで卒業演奏会でした。55年の育成会の歴史でスタジオでの卒業式と演奏会は唯一です。

その後、509スタジオはFM放送の収録で使っていますが、私の演奏家としての正に原点の場所で、初心に戻り収録に向かうようにしています。

育成会修了後、プロ演奏家への道は〈憧れ〉でしたが、現実の選択肢としては考えられず、大学卒業後、教職に就きました。しかし同期や前後の育成会の卒業生が頑張っている姿を見て、教職を辞め演奏家の道を目指す決断をしました。正に育成会での1年間の経験がなければ、私の尺八演奏家としての人生は考えなかったと思います。

そして・・・2010年3月25日、NHKホールでの記念演奏会で育成会は55年の歴史の幕をおろしました。その懇親会の席で「ひよんな」ご縁から〈同窓会を立ち上げよう！〉と盛り上がっているグループの輪に入ってしまった。「育成会への恩返し」の意味も含め、「同窓会立ち上げのための準備会」、設立理事・・・とお手伝いをさせていただいております。その間、「廃校」から1年半後の2011年9月29日に設立総会、さらにその1年半後の2013年3月9日に同窓会第1回演奏会が開催できたのは、卒業生の皆様の育成会への「熱い想い」の結集の賜物です。

「廃校になった」学校の同窓会は現在珍しくありませんが、「廃校になってから」設立された同窓会は稀な例ではないでしょうか。今後の会運営は困難な場面が多いと思いますが、皆様の育成会への「熱い想い」で乗り切れると信じております。

## 「残したい音楽 つなげたい心と技」

福本 礼美(54期)

美しい響きと、一音の表現の多様性に魅かれ、勉強を続けています。1300年余りほぼそのままの形で伝承されてきた箏。シンプルであればある程、奏者の心、身体の状態がそのまま表れます。知るほどにその奥深さ、可能性を感じます。

私達の音楽は、一般に伝統芸能のくくりでまとめられます。長い歴史の中で伝承されてきた古典は、各流派で、その中で生まれた音楽とともに大切に守り受け継がれています。

一方で1960年代を中心に生まれたいわゆる現代邦楽は、ジャンルや流派を越えて生まれたという経緯や、楽譜が出版されていないこと、プロの作曲家（邦楽器の演奏経験のない）の作品故の難易度の高さ、などにより聴きごたえ、演奏しごたえのある作品であるにもかかわらず、演奏の機会がほとんど無くなっているものが多くあります。NHKはじめ意欲的な演奏家の努力により生まれたそのような作品を、埋没させることなく、舞台にのせ聴いていただく機会をもつということは、NHK邦楽技能者育成会という場で学び、その精神を引き継ぎ発足した私達グループ（NHK邦楽技能者育成会同窓会）の使命であると思っています。

また、一つの時代を築き、今も現役で活躍されている素晴らしい先輩が、私達のグループには何人もいらっしゃいます。ご指導を受け、同じ舞台に立たせていただくことで、技術のみならず音楽に向かう姿勢、心を近くに感じることができるということは、何ものにも代えがたいことです。

会の発足以来、演奏会運営のお手伝いをさせていただき、貴重な経験と、素晴らしい仲間に出会う機会をいただきましたことを本当に幸せに思っております。多くの先輩方のお力をお借りし、本番に向けて心一つに集中していくエネルギーと出演者の熱意に、毎回感化されます。私達の小さな活動も、聴いて応援して下さる方々と、出演者一人一人が経験を夫々の活動の中で活かし広げていくことで、未来に繋がっていくと信じております。



# プログラム

## 「北国雪賦」 長澤 勝俊 作曲

指揮	石川憲弘(26期)[32~39期講師]			
三弦	富成清女(15期) 吉岡五月(55期)	竹澤かほる(27期)	古宮春海(31期)	富緒清律(33期)
箏Ⅰ	伊藤厚勢(12期) 五本木茂美(39期)	榎場比都美(23期) 飯田智奈美(54期)	梅田佳予子(33期)	牧野広美(35期)
箏Ⅱ	大澤善子(18期) 浅川京子(52期)	菊池美恵子(27期) 馬場千年(54期)	角矢晴美(32期)	五月女雅(35期)
十七弦	清野さおり(40期)	斎藤純子(48期)	麗明智翔(48期)	

## 尺八六重奏曲「嘉木の序 -茅場版-」 角 篤紀 作曲

尺八Ⅰ	福田輝久(18期)
尺八Ⅱ	山口賢治(39期)
尺八Ⅲ	松本宏平(53期)
尺八Ⅳ	岩本みち子(51期)
尺八Ⅴ	古屋輝夫(16期)
尺八Ⅵ	原郷界山(44期)

## 三弦・箏・十七弦による「四重奏曲」 藤井 凡大 作曲

三弦	小林富美代(8期) 吉岡五月(55期)	竹澤かほる(27期)	竹花貴子(34期)	井上美和(55期)
箏Ⅰ	五味静子(7期)	梅田佳予子(33期)	合田真貴子(34期)	福本礼美(54期)
箏Ⅱ	榎場比都美(23期)	五月女雅(35期)	浅川京子(52期)	阿佐美穂芽(55期)
十七弦	井上千恵子(15期)	高須真穂(32期)		

<休憩>



## 曲目解説

### 「北国雪賦」 長澤 勝俊 作曲 (1982年)

東北地方に古くから伝わる雪のまつり、「かまくら」と「ぼんてん」に光をあて、雪と、それに深くかわりながら生きる人々の哀歓をえがいたものです。

「かまくら」は二月十五日・十六日に行われる小正月の行事。雪空に水神様を祀り、その年の豊年を祈ります。笛や太鼓の音も聞こえない、ただ雪と光の静寂の中にこそ、かえって、さまざまな音の幻想が無限に広がっていきます。

「ぼんてん」は大きな御幣を神社に奉納する勇壮な行事。雪にとざされた人々の、この日にかけたエネルギーの昂揚と魂の躍動が感動的です。 (作曲者)

宮城合奏団委嘱作品

※本日は一部カットして演奏させていただきます。

### 尺八六重奏曲「嘉木の序 - 茅場版 -」 角 篤紀 作曲 (2018年/改訂初演)

嘉木といえは古来、薬として用いられた茶木のこころしい。人間の勝手な思いで、役に立つ役に立たないと指さされる木も迷惑だろうが、体を療治し、気を癒す茶は、この字をあてるほど大事にされたということか。思えば尺八とのご縁もずいぶん長くなった。茅場版制作のご依頼をいただいたとき、これは、茶ばかり喫していないでそろそろ恩返しをせよ、とのことであろうと思った。茶筌となって裏方を務める竹もあれば、尺八となって主役を張る竹もある。いずれも、そのゆるやかな薬効は他に替えがたい。お聴きくださる皆様に、一服の響きをお楽しみいただければ、少しは願いを果せたことになるだろう。原曲の六重奏は今から10年ほど前に書いた。譜面の変遷は、その歳月のわが来し方でもある。懐かしく、いとおしく、どこか切ない。

(作曲者)

### 三弦・箏・十七弦による「四重奏曲」 藤井 凡大 作曲 (1967年)

NHKの委嘱によって作曲、初演放送され、以後数多くの上演、放送の機会に恵まれた。大編成による上演もしばしば行われている。

第一楽章は、三弦のきざむ大まかなリズムの上に、極めて特徴的な、こまかいリズムの短い旋律が奏され、この二つのリズムが楽章全体を支配する。半音のズレを利用した転調をはじめとする調性の変化もこの楽章を特徴づけている。三弦は、どちらかと言えば長唄風の音が適している。

第二楽章は、三弦のコキ、箏や十七弦のアトオシを多用したゆるやかな楽章で、三弦は地唄風である。パチやコマの工夫で、音色を楽章ごとに変えてみるのも一興であろう。

第三楽章は、長唄風の極めて速い楽章で、一気に駆け抜ける様なテンポ感が大切である。

この曲を作った頃、丁度囃子のリズムに熱中していたせいで、全曲にわたってその影響が見られ、一・三楽章では特にその傾向が強い。冒頭のリズムは、鼓の唱歌で「タスポタッポ……」となる。殊更それを意識して作曲したわけではなかったのだが、改めて見直すと、当時勉強していたものがそのまま曲の上に現れている。面白いものである。

(作曲者)

「<sup>テ</sup>三<sup>ル</sup>角<sup>タ</sup>州」 松本 雅夫 作曲

箏Ⅰ	後藤すみ子(2期)	杉浦順子(22期)	井上美和(55期)
箏Ⅱ	今西真智子(16期)	佐々井麻矢(52期)	福本礼美(54期)
箏Ⅲ	井上千恵子(15期)	高須真穂(32期)	茨木寛子(34期)
十七弦	栫場比都美(23期)	横山裕子(29期)	

「太棹協奏曲」 牧野 由多可 作曲

指揮	石川憲弘(26期)[32~39期講師]			
太棹ソロ	杵屋子邦(18期)			
打楽器	富田慎平(賛助出演)			
尺八	山口賢治(39期)	岩本みち子(51期)	松本宏平(53期)	大山貴善(55期)
箏Ⅰ	高須真穂(32期)	渡理潤子(48期)	飯田智奈美(54期)	
箏Ⅱ	牧野広美(35期)	麗明智翔(48期)	浅川京子(52期)	
箏Ⅲ	斎藤純子(48期)	成瀬朋子(48期)	石橋規子(54期)	
箏Ⅳ	小野宏子(17期)	一色美枝(34期)	盛田真理子(42期)	
十七弦	合田真貴子(34期)	清野さおり(40期)		

邦楽界の最新動向がひと目でわかる情報誌

毎月1日発行・A4判・756円

(同内容同価格のデジタル版もあり)

お得な定期購読がオススメ(送料弊社負担)

# 邦楽ジャーナル

(有)邦楽ジャーナルは  
【出版・通販・イベント】  
3つの柱で運営します。

◆月刊情報誌「邦楽ジャーナル」の発行

◆1900アイテム余の邦楽CD・書籍等の  
通信販売「HOW」の運営  
<http://hj-how.com>

◆コンサートやワークショップの制作

〒203-0054 東京都東久留米市中央町6-2-5 代表・田中隆文  
TEL042-472-3870 FAX042-420-1099 [info@hogaku.com](mailto:info@hogaku.com)



デルタ  
「三角州」 松本 雅夫 作曲 (1958年)

源泉の違う所からの堆積物が三角洲を型作って行く様に、そしてその堆積された三角洲に美しい花が咲き出る様に、言葉を変えて言えば一人一人では問題にされない様な些細な善意の永い永い時代の積み重ね、それを土壌として美しい文化の華の咲く様にとの祈りの気持ちが託されています。総体的には弦楽四重奏に於けるアンサンブルの肌合いの様なものを、リズムについては「六段」の流れる様に自然に変化して行くリズム、そのいったものに近づきたいと考えました。技法としては多分に複旋法的に書かれてあります。(作曲者)

「太棹協奏曲」 牧野 由多可 作曲 (1966年/1970年改訂・改題)

従来主として「浄瑠璃及び歌舞伎の世界」の中で生きつづけてきた太棹三味線。

日本人の生活、義理、人情のしがらみ、その喜びや悲しみ、せつなさを、赤裸にする音。我々の体臭を、そのまましほり取ってきたようなどろっとした残酷さと、艶と深みのある響き。

その音と、伝統的な音型を生かしながら、いかに今日に生かし、新たな光を与えることを可能にするか、邦楽器による現代作品への一つの意義になるのではないだろうかと思った。

此の曲はその太棹を独奏者として、他の邦楽器群、箏4、十七弦1、尺八1、打楽器1からなる(邦楽器オーケストラ)と協奏させたもので所謂コンチェルトである。

第一楽章レント、プレスト、第二楽章アダージョ、第三楽章スケルツォ、及びコーダよりなっており、全曲切れ目なく演奏されるようになっている。(作曲者)

牧野由多可先生は山田耕筰の最晩年の門下生であるので、元々洋楽の作曲家であるが1960年頃から、自分の国の音楽として邦楽を熱心に勉強、体験され多数の現代邦楽作品を書かれた。

また邦楽器の中でも特に、十七弦や胡弓、太棹三味線などの今までそれほど光の当たらなかった楽器から、独奏楽器として新しい魅力を引き出された。

全曲通して19分強の長い作品であるが、太棹の迫力をいかに発揮させた楽章、尺八が朗々と歌い上げる楽章、洒落な滑稽味さえある楽章と、聴いている方に決して長さを感じさせない名作である。

今回17期から55期までの幅広い世代の方々と共に、この素晴らしい作品を練習し、作り上げていくことが出来たのは、とても刺激的で楽しい体験であった。助演の冨田さんにはリハーサルに何度も出ていただいてありがたかった。全員から謝意を表す次第である。(石川憲弘)



あなたの楽器は私達がささえます!

一般社団法人 **全国邦楽器組合連合会**

一般社団法人全国邦楽器組合連合会とは

1956年に設立した全国の邦楽器メーカー・職人・卸売・小売・楽譜出版社等の会員からなる組織で、以下の各地組合で構成しています。

**(全邦連)**

東京和楽器製造卸組合 東京和楽器商組合 北海道邦楽器商組合 仙台北邦楽器商組合  
福島県邦楽器商組合 神奈川県邦楽器商組合 静岡県和楽器商組合 新潟県邦楽器商組合  
北陸邦楽器商工業組合 長野県邦楽器商組合 中部和楽器商組合 京都邦楽器商工業組合  
全国邦楽器系組合 大阪邦楽器商組合 関西地区卸商組合 関西三絃製造組合  
全国邦楽器妙音会 兵庫県邦楽器商組合 中国邦楽器商工業組合 四国邦楽器商組合  
九州邦楽器商組合 [本部] 光安慶太理事長方 = 三郷市鷹野 3-278-1 ☎048-955-4948



◆放送予定◆

「邦楽百番」NHK-FM

NHK邦楽技能者育成会同窓会演奏会

2019年3月30日(土) 午前11:00~11:50

※再放送 3月31日(日) 午前5:00~5:50

NHK邦楽技能者育成会では随時入会の募集をしております。演奏会をはじめ様々な形での活動を予定しております。未入会の卒業生のご入会をお待ちしております。

■NHK邦楽技能者育成会同窓会 事務局  
TEL 080-9708-1055 FAX 03-6800-2012  
E-mail:n.ikuseikai.dousoukai@gmail.com

現代邦楽「響」実行委員会

後藤すみ子 (2期)※代表

横山裕子 (29期)

山口連山 (32期)

高須真穂 (32期)

富緒清律 (33期)

合田真貴子 (34期)

設楽瞬山 (38期)

原郷界山 (44期)

小林千恵子 (46期)

松本宏平 (53期)

福本礼美 (54期)※実行委員長

井上美和 (55期)

出演 石川 憲弘 [指揮]

NHK 邦楽技能者育成会同窓会会員 [演奏]

後援 (一社)全国邦楽器組合連合会

東京都邦楽器商工業協同組合

公益財団法人日本伝統文化振興財団

邦楽ジャーナル (五十音順)

協力 舞台スタッフ (株)琴光堂